

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

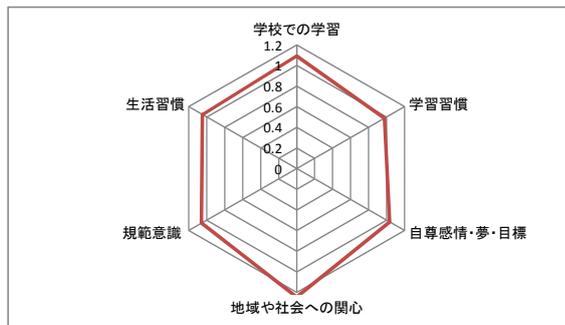
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの問題で正答率が全国平均を上回っている。無回答率も全ての問題で0%であった。相手や目的に応じ伝えたいことを筋道立てて話すことに関する問題や慣用句など言語に関する問題の正答率が高く、普段の学習の成果が現れていると考えられる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・主語と述語の関係などに注意して文を正しく書く問題は他の問題と比べての正答率が低いが、全国平均を10ポイント以上上回っていた。	
	努力が必要な問題	・相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題で、正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全ての問題で正答率が全国平均を上回っている。無回答率も最後の問題以外は0%であり、問題文を読み、何かしら解答しようとする姿が見られる。書くことや表現することの指導において、相手や目的を明確にしなが、必要な事柄を選んで書かせる取組や、他者を比べて自分の考えをまとめる等の取組をさらに強化する必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・話し手の意図を捉えながら考えをまとめて書いたり、目的や意図に応じて詳しく書く問題で、正答率はかなり低いが、全国平均は上回っていた。	
	努力が必要な問題	・話し手の意図を捉えながら考えをまとめて書いたり、目的や意図に応じて詳しく書く問題で、正答率はかなり低いが、全国平均は上回っていた。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	どの領域も正答率は、全国平均を上回っているが、数と計算の領域は他の領域に比べて正答率が低い。無回答率は一問を除いて0%であり、国語と同様、何かしら解答しようとする姿が見られる。1に当たる大きさを求める学習や割合の学習などに対して、児童の理解を深める学習指導の工夫が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・180°より大きい角の大きさを求める問題や空間の中にあるものの位置を表現する問題、混み具合を比べる問題は正答率が高かった。 ・円周率を表す式を選ぶ問題は、正答率は若干低いが、全国平均を大きく上回っていた。	
	努力が必要な問題	・小数の除法の意味を問う問題、直径と円周の長さの関係や円周率の意味を問う問題の正答率が低い。 ・1に当たる大きさを求める数量関係の理解や、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解を問う問題の正答率が、全国平均を大きく下回っている。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	多くの問題で正答率が全国平均を上回っているが、他の調査項目と比べると、無回答率が高い。論理的な考察や数学的な表現を苦手とする様子が見られるが、示された考えを解釈する問題で、全国平均を大きく上回る。他の資料と関連付けたグラフの読み取りに課題がある。複数の資料と関連付けた資料の読み取りや、解釈したことを適切に表現する力をつけていく指導が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述する問題は、全ての問題の中で一番正答率が高く、全国平均もより20ポイント近く上回っていた。	
	努力が必要な問題	・複数の観点で考察したり表現したりすることができるかをみる問題の正答率が低かった。 ・複数のグラフから読み取ることができることを、適切に判断する問題の正答率は、全国平均を大きく下回った。	
理科	全体的な傾向や特徴など	多くの問題で正答率が全国平均を上回っている。下回っている正答率も全て2ポイント以内であり、無回答率も最後の問題以外は0%であった。生命の領域が、他の3領域に比べて正答率が高かった。考察の内容の記述をする問題の正答率は、全国平均を上回っているが、正答率が他の問題よりかなり低い。考えたこと適切に表現する力をつけていく指導が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して構想した実験を選ぶ問題は、若干正答率は低い为全国平均を大きく上回っていた。	
	努力が必要な問題	・食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題は、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・学習習慣としては、宿題はするが自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国平均よりも低い。また、授業の予習・復習を含めた家庭での自学自習に取り組む児童の割合がかなり低い。家庭学習を自発的かつ計画的に行う習慣をつける働きかけが必要である。	
・学校での学習で、課題解決に向けて、自分で考え取り組んでいたと回答した児童の割合は全国平均を上回っているが、自分の考えがうまく伝わるよう工夫したと回答した児童の割合は全国平均を下回っている。児童が考えを表現できるようになるための教師側の手立てを工夫し、学年のつながりを考えながら取組の共通理解をする必要がある。	
・校区での行事が多く行われる地域でもあり、様々な行事に多くの児童が参加している。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

◎学力向上のための特設時間の実施

・月曜日、木曜日・金曜日の朝の活動を「学習タイム」とし、それぞれ、算数、国語の基礎学習や考えを表現するワークに取り組んでいる。これまで金曜日の内容は学年に任せていたが、3年生以上は、定着サポートシステムを活用するようにした。木曜日は、昨年度からの取組を継続し、児童が考えたり、考えたことを表現できる力を伸ばすため、ワークを実施する。どの取組もやりっ放しにならないように15分間の活動の内、10分で取りくみ、残りの5分で前回の解説と見直しなどを行うようにする。

・今年度から4～6年生の授業時間数が増え、水曜日が6校時となったことで、1～3年生は水曜日の6校時の時間帯をパワーアップタイムとして、20分間ほど、国語、算数の補充学習をしてから下校している。

◎「中井授業スタンダード」を基本とした授業づくり

・①学習の確認や学習の予測ができる「めあて・見通し」、②自分の考えをもたせて他者と協働させる「学び合い」、③学びを実感する「まとめ・振り返り」、に基づいた、柔軟な創意工夫をして授業実践に取り組む。

◎「考え、表現する」ことを習慣化

・子どもが自ら考えざるを得ない学習課題を提示する。

・学習の中で、自己の考えを決められた時間にもつことができるようにし、そのための手立てを工夫する。

・考えをもとに協働する学習を設定し、考えを出し合い、練り合うことに必然性をもたせ、自他の考えをよりよいものに高めていくことができるようにする。

・振り返りとして、新たな気づきや自分の考えの変容などを書くようにするとともに、学んだことが次の学習や生活に生かせようだという見直しをもたせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎家庭学習のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)

・家庭学習時間のめやすの時間を(学年×10+10)分程度とする。

・校内で作成した「家庭学習の手引き」について通信や懇談会等で知らせる。

・懇談会やPTA理事会などの機会に「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習の意義や取り組み方などについて伝える。

・学力向上推進委員会を兼ねた主題推進委員会等で児童が計画的に取り組むことのできる家庭学習の取り組みせ方について話し合うとともに、職員の共通理解を図る。

◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

・児童質問紙の内容で重点的に取り組むものを抜粋して、全児童にアンケートを実施することで、課題を明確にし、職員の共通理解のもとで課題解決に取り組む。

・学校だよりや学校HPで結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。